

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある高名な考古学者にたずねたことがある。人類が最初に家畜にした動物は何ですか。」

考古学の老大家は、「一瞬首をひねった末、「多分、羊でしょうねえ。」と応えた。こんな質問ははじめてだったらしい。家畜といえば、馬、牛、羊、山羊、駱駝がある。中でも羊は飼いやすい。大きさも手ごろなら、性格もおとなしい。肉、皮、角まで余すところなく利用できる。何よりも群れをなす習性があるので、集めやすい。騎馬と車両の技術を知らない太古の人類でも容易に飼育できただろう。」

私はそんなことを思い浮かべてうなずいたが、ふと疑問がわいた。

「犬はどうですか……。」

「犬は別なんです。」

今度は、老大家が素早く力強く応えた。

「犬は人類が飼いだしたのではなく、犬の方から人間に近づいてきたのです。だから人間のいるところには必ず犬がいます。」人類は技術を磨き、機具を作って、多くの食糧を得る。しかし、歯は弱く舌はなめらかで多くを食い残す。さらに、貪欲な人類は、食糧を過剰に蓄え、その相当量を食べきれずに捨てる。技術と機具が進むにつれて、人類の食糧廃棄量は増えた。

今日の先進工業国では、生産した食糧の四分の一は生産現場で、次の四分の一は流通過程で、そしてもう四分の一は家庭や食堂などの消費の場で、廃棄されている。人類が口に入れて消化するのは総生産量の四分の一、それでも太り過ぎが多くて悩んでいる始末だ。

犬は、この人類の肉体的不器用さと性格的貪欲さを察し、人間の近くにいると食糧にありつけることを知った。つまり、犬の方から人間にまとわりつくようになったのである。

ここまでは、ライオンとハイエナの関係と同じだ。犬の利口なところは、ライオンとハイエナのような争奪的關係ではなく、人類と友好的主従的關係になったことだ。人間が従順なものを愛する感情を持っているのを見ぬいたのである。

犬は人類に可愛がられることで生き残った。何万年の間、人類に可愛がられるノウハウを学び、何千世代にもわたって伝授してきた。今やそれは、犬のDNAに組み込まれているに違いない。

犬の可愛がられるノウハウの第一は、喜怒哀楽の表現方法だ。喜びはA、怒りはB、哀しみはC、楽しさはD表す。いずれも可愛がられるコツだ。われわれ人間も学ぶべきところだ。

第二は、ご主人を見分ける術だ。直接に餌をあたえる者よりも、待遇の決定権を持つ実力者をすぐに見分ける。犬は、人間社会の権力構造を察知する超能力を備えているらしい。

第三は絶対の従順。自分の直属上司(飼い主)には全面的に服従する。「犬馬の労も厭わず」ということわざどおり、犬と馬は無理な命令でも懸命に果たそうとする。結果を予測してためらうことも、労役の軽重に苦情をいうこともない。それに加えて、性急な要求やしつこい苦情をいうこともない。というよりも、それをする能力が乏しい。

もし犬が人語を話したなら、「餌をくれ。」「もっとおいしいものにしる。」「散歩に行こう。」「ちょっと待て。」「隣の奴の方が得をするぞ。」などとうるさいかもしれない。

(堺屋太一「の文章による」)

\*注 DNA——ここでは、「遺伝情報」の意味で用いている。

問一——線部1「私はそんなことを思い浮かべてうなずいた」とありますが、これはどういうことですか。次の説明文のI、II、IIIに入る言葉をそれぞれ指示にしたがって答えなさい。

I

II

III

I 問題文中の言葉を用いて、二十字以内で答えなさい。

II 問題文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

III 自分で考えて、漢字二字で答えなさい。

問二——線部2「素早く力強く」とありますが、これと対照的な内容の表現を、問題文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問三——線部3「肉体的不器用さ」、4「性格的貪欲さ」とありますが、それぞれ具体的にはどういうことですか。問題文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

問四 問題文中のA、B、C、Dに入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次のア、イ、ウ、エ、オから選び、記号で答えなさい。

- ア (A) 短く B 大きさに C 静かに D 無邪気に
- イ (A) 大きさに B 短く C 静かに D 無邪気に
- ウ (A) 大きさに B 短く C 無邪気に D 静かに
- エ (A) 短く B 静かに C 大きさに D 無邪気に
- オ (A) 短く B 大きさに C 無邪気に D 静かに

さくらの個別指導(さくら教育研究所)

問五 線部X「肉、皮、毛、角」とありますが、「肉」「皮」「毛」「角」を用いたことわざや慣用句があります。「毛」を用いた例にならってa、b、cの説明に合うことわざや慣用句を、「肉」「皮」「角」のうちのとれかと、指示された漢字とを用いて答えなさい。「肉」「皮」「角」の読み方は、問題文での読み方と異なるものでもかまいません。

(例) 「牛」——多数の中のごく一部分。 (答え) 九牛の一毛

a 「氷」——表面に現れたものは、重大な物事のごく一部にすぎないことのとえ。

b 「策」——いろいろ悩んだ末に考え出した、本当はあまりとりたくないような手だて。

c 「面」——あつかましく、ずうずうしいさま。

問六 線部Y「結果」の反対語は「原因」ですが、次のa、b、c、dの反対語をそれぞれ問題文中からぬき出しなさい。

- a 回答 b 困難 c 理性 d 部下

二 次の1〜5およびA〜Eの□には、それぞれ漢字一字が入ります。例にならって、1〜5に入る漢字に、A〜Eに入る漢字を組み合わせて、別の漢字を作りなさい。ただし、A〜Eは同じものを二度使ってはけません。

(例) 竹 馬の友 A 不 □ 実行
1 □ 乱れぬ行進 B 同 □ 異曲
2 □ があつたら入りたい C 自 □ 満足
3 □ 年一昔 (例) 勝てば □ 官 軍
4 悪事千里を □ する D □ 点がゆく
5 立 □ 伝中の人物 E □ 科玉条

(例) の答え 「竹」+「官」→「管」

三 次の1〜4の——線部の「ない」と、言葉の使い方の上で同じものをそれぞれのA〜Eから選び、記号で答えなさい。

- 1 軽はずみに判断しないようにしよう。
2 ふがいない結果を反省して、次回に役立てよう。
3 ここから駅までは、そう遠くはないだろう。
4 その問題には、解決に適した方法がないようだ。
A 部屋が暗くて本が読めない。
I おせじを言われても、べつにうれしくない。
ウ 必要のないものを持ってきてはいけません。
エ 思わぬエラーであっけない幕切れをむかえた。

四 次の1〜7の俳句の( )に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれのA〜Gから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものを二度使ってはけません。

- 1 名は( ) ( )のの見事に散ることよ (夏目漱石)
2 山は暮れて野はたそがれの( ) ( )かな (与謝蕪村)
3 山暮れて( ) ( )の朱を奪いけり (与謝蕪村)
4 しぼるほどぬれてしだる( ) ( )かな (谷木因)
5 紫のふつとふくらむ( ) ( )かな (正岡子規)
6 うつむいて何を思案の( ) ( )の花 (正岡子規)
7 ( ) ( )咲けどうぐいす鳴けどひとりかな (小林一茶)
A かしわ I ききょう U さくら
エ すずき オ もみじ カ やなぎ キ うめ
ク たけ ケ まつ コ ゆり

五 次の1〜5の文の——線部は、すべて「ツク」で終わる外来語にいいかえることができます。それぞれ指示された字数(「ツク」もふくむ)で答えなさい。

- 1 大量の在庫をかかえて経営が苦しくなった。(四字)
2 まちがいがいか度か何度も点検した。(四字)
3 あの芸能人の、人を笑わせる技術は大したものだ。(五字)
4 あの選手は、大げから見事に復帰した。(五字)
5 予想外の災害で、人々は混乱状態におちいった。(四字)

六 次の1〜5の、漢字二字の熟語によるしりとりをそれぞれ完成させなさい。ただし、最初の字の読み方と、□に入る字の読み方は同じです。また、A・Bは、一度目と二度目とで読み方が変わってもかまいません。

(例) 隊 A | A | B | B | C
(答え) A列 B車 C体 (「隊」と同じ読み方)
5 談 A | A | B | B | C
4 下 A | A | B | B | C
3 事 A | A | B | B | C
2 述 A | A | B | B | C
1 利 A | A | B | B | C

--

◎解答に字数制限のある場合、句読点などの記号も字数に数えます。

問六	問五			問四	問三		問二	問一		
a	c	b	a		4			III	II	I
b										
c										
d										

六

5	4	3	2	1
A	A	A	A	A
B	B	B	B	B
C	C	C	C	C

五

5	4	3	2	1

四

6	1
7	2
	3
	4
	5

三

1
2
3
4

二

1
2
3
4
5